

とづかみなみしようがっこう

どくしょかんそうぶんをかこう 一・二ねんせい

なまえ)

もうすぐ、みなさんが たのしみになっている なつやすみですね。この なつやすみに たくさんの
の ほんを よんで、どくしょかんそうぶんに ちょうせんしてみてください。きっと、おきにいり
の いっさつと であえるでしょう。

どくしょかんそうぶんの かきかたを おしえますので、おうちのひとと よんで、かんそうぶん
を かいてみてください。

かんそうぶんの かきかた

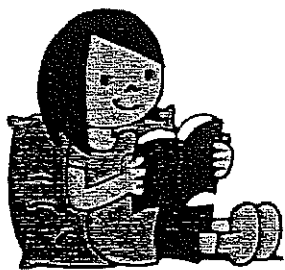
①ほんを えらぶ。

- おもしろいと おもった ほん ○ かだいとしょ
○ せんせいや おうちのひとや 「山の ちょうじょうの 木の てっぺん」
おともだちの おすすめのほん 「おれ、よびだしになる」
「タヌキの きょうしつ」
「ながーい 5ふん、みじかい 5ふん」



②ほんを よむ。

- ★ むちゅうに なって よむ。
★ えも よく みる。えが はなしかけていることを みつける。
★ なんかいも よむ。



③かく。



- ★ かんそうぶんの かたちを きめる。(つぎの ような ものが あります。)
・ おてがみ(おはなしに) でてくる ひとに はなしかけるつもりでかく。
・ つづきばなし(つづきをそうぞうして かんそうぶんの さいに) つけたす。
・ どくしょゆうびん(せんせいや おともだちに しらせるつもりでかく。)
★ かきだし(ぶんの はじめ)を くふうする。
・ ほんを えらんだ りゆう ・ おはなしの しゅじんこうに いいたいことなど
★ じぶんの かきたいことを はっきりさせる。
★ ほんを よんで じぶんが かわったら どんなふうに かわったのかも かく。

読書かんそう文を書く 三・四年生

名まえ()

もうすぐ、みなさんが 楽しみにしている 夏休みですね。この 夏休みに たくさんの 本を 読んで、読書かんそう文に ちょうせんしてみてください。きっと、お気に入りの いっさつと 出あえるでしょう。

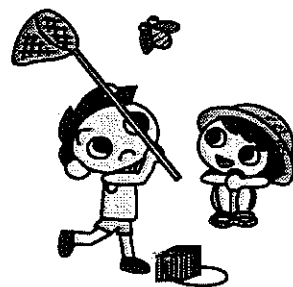
読書かんそう文の 書き方を 教えますので、おうちのひとと 読んで、かんそう文を 書いてみてください。

かんそう文の 書き方

①本を えらぶ。

- すきな本 きょうみがある本
- かだいとしょ
- 先生や おうちの人や
- 「青い あいつが やってきた!？」
- ほかの人の おすすめの本
- 「ねこと 王さま」

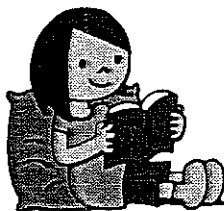
「ポリぶくろ、1まい、すてた」
「北極と南極の『へえ』くらべて
わかる地球のこと」



②本を 読む。

★ 同じ本を三回いじょう読む。

- 一回目・・・だいたいの かんそうや かんどうを つかむ。
- 二回目・・・立ち止まって 読みながら、マークしておく。
(ふせん紙をはったり、紙をはさんだり)
- 三回目・・・自分がマークしたところを 中心に読んで、自分の考えをたしかめる。



③書く。

★ 書き出し

- ・ 一番 心に のこったことから
- ・ 本を読み終わった後の かんそうから
- ・ ふしぎに 思った ところから
- ・ 本の中の 文を 読んで
- ・ その本を 読んだ きっかけから
- ・ 登場人物への よびかけから

★ 文の組み立て

三つの部分(はじめ、なか、おわり)に分けて書く。

★ 書き終わり

- ・ 書き始めで ぎもんや しつもんを 書いて、書き終わりで 自分の見つけた 答えを 書く。
- ・ 書き始めに その本を えらんだ きっかけや、自分の 生活ぶりなどを 書いて、書き終わりで 本を 読んでから 自分の中で 何が かわったかを 書く。



ふだんから、本を 読んで 心に のこったことや ぎもんに 思ったことを 書きとめておきましょう。本と 出あって、動いた 自分の 心を見つめることは、これからの みなさんの せいちよの たすけになることでしょう。

読書感想文を書こう 五・六年生

名前()

もうすぐ、みなさんが 楽しみにしている 夏休みですね。この 夏休みに たくさんの 本を 読んで、読書感想文に 挑戦してみてください。きっと、お気に入りの 一冊と 出あえるでしょう。読書感想文の 書き方を 教えますので、感想文を 書いてみてください。

感想文の 書き方

①本を 選ぶ。

- すきな本 きょうみがある本
- すきな 作家の本
- 先生や ほかの人の おすすめの本

○ かだい図書
「ヒロシマ 消えた かぞく」
「月と 珊瑚」
「飛ぶための 百歩」
「風を切って 走りたい！」

②本を 読む。

- ★ 読みながら、メモをつくる。
(登場人物・自分の感想・気に入った文や 気になる文に 付せん紙をはる。)
- ★ その本の 主題を 考えながら 読む。
- ★ 主人公を 追いかけてながら 読む。

③書く。

- ★ 書き出しを 工夫しよう。
 - ・ 自分が 一番 言いたいことを きつぱりとした 文章で 書く。
 - ・ 文中で 一番 心に のこった 文章や 言葉から 書く。
 - ・ その本を 読んだ きっかけから 書く。
 - ・ 登場人物への 呼びかけから 書く。



- ★ 内容を ふくらませよう。
 - ・ 自分と 登場人物を 比べてみたり、身近な人と 話の中の人物とを 重ね合わせ てみたりする。
 - ・ 作品を いろいろな 角度から ながめてみる。
 - ・ 読書感想文を 読んだ人が その本を 読んでいなくても、おおよそのことが つかめるように、あらすじも 必要に応じて 少しだけ 入れる。
 - ・ (あらすじばかり 書くのは よくないです。)
 - ・ 自分の 体験を 入れて 書く。ただし、本から 内容が はなれないようにする。
- ★ 書き終わりを 工夫しよう。
 - ・ 本を 読んで 一番 強く 感じたことや これからの 自分の 生き方に 役立 てたいことを 書く。
 - ・ 書き出しの 部分で 疑問や 質問を 投げかけておいて、終わりに 自分なりの 答えを書く。
 - ・ 書き出しの 部分で、自分の 何気ない生活に ふれた場合は、結び(終わり)で それが 本との 出あいだ どう 変わりそうかを 書く。

※ 普段から、本を、読んで 心に 残ったことや 疑問に 思ったことを 書きとめておきましょう。本と 出あって、動いた 自分の 心を見つめることは、これからの みなさんの 成長の 助けに なることですよ。

